



アメリカ Biomet 本社での屍体を用いた人工膝関節手術トレーニングの経験

2013年8月4日から9日、渡邊はアメリカ、インディアナ州ワルソーにあるBiomet本社（人工関節の製造会社）で行われたKnee Current Issue Meeting in USとCadaver training（屍体を用いたトレーニング）に参加してきました。



Joint Implant Surgeons前にて 一番左が渡邊

今年の日本の夏は酷暑でしたが、アメリカ北西部五大湖周辺は気温25度ぐらいでからっとしており、とても過ごしやすい気候でした。今回の目的は、Biomet社から発売された『バンガード』という人工膝関節の基本的な手術手技を習得することと同時に、人工膝関節の伸びと曲がりの安定性を獲得するためのギャップテクニック（軟部組織の適切なバランスをとるためのテクニック：人工関節センター News 2012年6月参照）を学ぶことです。

参加者は日本各地からの関節外科医6名。手術経験豊富な先生も多く、お互いの病院での手術方法など、意見



Biomet本社前にて

交換も活発で刺激的な毎日でした。インストラクターの小林章郎先生（白庭病院）による講義を受けた後、Cadaver trainingが実施されました。二人一組で順番に術者、助手を務め、ギャップテクニックを用いた人工膝関節置換術を施行。第一人者の先生方から指導を受けながら、正確な手術を施行することができました。

また、アメリカの人工関節手術の最先端の病院である、Joint



終了証明

Implant Surgeonsを訪問し、年間1000例近くの手術を執刀されるDr. Berendの手術を見学しました。手術室のシステムが日本とは全く違いますが、7例もの手術を正確に午前中だけで終了させたことに大変驚

き、技術的にも勉強になるところがたくさんありました。その他、実際に人工膝関節を製造している工場を見学するなど、とても有意義な日程を終了し、8月9日に帰国しました。

当センターが行っている人工膝関節置換手術

当センターでは、軟部組織のバランスをギャップテクニックを用いて整えることに加えて、ナビゲーションシステムで正確な骨切りを行うことで、関節安定性の獲得を行っています。今回得た知識を生かし、今後も患者様により良い膝関節の治療を提供できるように努めていきたいと思っております。

これからも、人工関節手術を行っていく立場として、よりよい治療を提供できるように努力していきます。